都市と住宅を考える会　国内現地研究　佐世保・島原(2007.1.13、14)
参加者評価とりまとめ

参加者の皆様には、はるばる日本の西の端である長崎までお越しいただき、また評価の提出にご協力いただき、ありがとうございました。

地元の商店街、市役所の方々におかれましては、休日にもかかわらず地域のまちづくりへの取り組み、考え方など見学だけでは得られない貴重なお話を伺うために時間を割いていただき、案内でもお世話になるなど、大変ご協力をいただきました。おかげさまで今回の現地研究がより実り多いものに、また予定どおりに行うことができました。参加者からも多数のお礼の言葉が寄せられております。この場をお借りしまして、改めて御礼申し上げます。

さらに、行程などに至らない点が多々あったと思いますが、企画した呉に対し多くの参加者の方からありがたいねぎらいの言葉をいただきました。ありがとうございました。

参加者の評価を下記のようにまとめました。提出された貴重なコメントをそのまますべて載せたいとも思いましたが、全体では相当なボリュームとなるため、呉が、要約や同様な意見の省略等の作業をさせていただきました。また、文章の表現は原文を尊重したため揃っておりません。あしからずご了承ください。

【評価とりまとめについて】

１．～３．訪れた佐世保、島原、神代それぞれのまちについて　・・・・・・　Ｐ２～

⑴ 参加者の評価、今後への提案等の概要
⑵～⑷の概要、傾向を簡単に整理しました。

⑵ まち全体の印象に対する評価
参加者に、Ａ(大変良い)、Ｂ(良い)、Ｃ(普通)、Ｄ(悪い)のいずれかの評価とその理由をコメントしていただきました。ＡＢＣＤの数の集計とコメントの要旨（文頭に評価）を掲載しました。

⑶ 魅力があると感じたもの（佐世保、島原のみ）
参加者には、まちで魅力があると感じたものを５点以内で挙げていただきました。内容的に同様なものをグループ化して評価の高い順に並べ、コメントの要旨を掲載しました。順は、便宜上参加者が挙げた項目を上位から順に5、4、3、2、1点の点をつけ、この合計点の順としました。合計点とその内訳は（　）内に記載しました。

⑷ 今後のまちづくりに対する意見、提案等
参加者に投げかけた設問と、いただいたコメントの要旨を掲載しました。

４．「長崎」のまち全体を通して感じたこと等　・・・・・・　Ｐ１１
いただいたコメントの要旨を掲載しました。

５．２日間の企画全体について　・・・・・・　Ｐ１２
いただいたコメントの要旨を掲載しました。

(参考)

○ 評価を受けとめて、これから　・・・・・・　Ｐ１３
参加者の評価から、現在のそれぞれのまち及び今後のまちづくりについて、改めて認識できたこと、考えるべき方向などを記しました。地元一関係者が受けとめた内容としてご覧ください。

○ 現地行程　・・・・・・　Ｐ１４

《参加者名》

大竹亮、大野雄一※1、大場明夫、梶川義美、栗原徹※1、栗村一彰、小池信子、洪正徳、小林正樹、志岐祐一、重永真理子、関修一※2、恒川磯雄、豊原寛明※1、二瓶正史、平井志都葉、古里実、保倉俊一、山本忠※2、横堀肇　＋呉祐一郎　(順不同、20名＋1名、※1：佐世保のみ参加、※2：神代のみ不参加)

評価とりまとめ

１．佐世保のまちの良さ、課題、これからを考える――――――――――――――――――――――――――――

⑴ 参加者の評価、今後への提案等の概要

全体の評価としては、半数強がＡ（大変良い）、残り半数弱がＢ（良い）と、とても高い評価でした。

魅力あるものとして、やはり活気にあふれた中心商店街そのものと、それを支える人達の熱心で工夫を凝らした活動や優れた企画などいわば賑わいを呼ぶソフトに評価が集中しました。次いで、ユニークなとんねる横丁や戸尾の市場街、さらに佐世保バーガー、外人バー、とんねる横丁（夜も）などの特徴ある食べ物や店にも、高い評価が得られました。また、斜面住宅地に対してその魅力と今後の課題など、高い関心や今後のまちづくりに思いを寄せた参加者が少なからずありました。

これからのまちづくりについては、行政の集約型都市づくりの政策の推進と一体に、商店街に対してはソフトを企画、運営する人や組織の（現理事長の活躍を引き継ぐ）体制づくり、都市整備の観点からはまちなかの後背地となる斜面住宅地の再生が大きな課題として提起されました。

⑵ 佐世保の中心市街地全体の印象に対する評価

〔評価集計〕

Ａ（大変良い）	Ｂ（良い）	Ｃ（普通）	Ｄ（悪い）
８人	７人	０人	０人

（記入者１６名（うちＡ～Ｄ評価記入１５名）/参加２０名中）

〔参加者の評価とコメント概要〕

（Ａ）地形上の制約もあり、中心市街地に商業、交通、行政等の機能がコンパクトに凝縮され、行政も駅周辺の整備や郊外開発の抑制で、中心市街地を重視している。長いアーケード、斜面住宅地や地下壕の商店、路地の奥の鉄道駅など空間的にも面白いし、外人バーや佐世保バーガーなども独特の魅力。三浦町教会、親和銀行本店などいい建築も多い。中心商店街はすばらしい。かつて全国の都市に当たり前にあって今はほとんど見られなくなってしまった「元気な中心商店街」がここにはある。理事長さんのお話を聞いて、皆さんの不断の努力の結果であることがわかった。これからも頑張ってほしい。

（Ａ）多くの地方都市が衰退しつつある状況を見るにつけ、佐世保の中心市街地がコンパクトでありつつ活力を持ち続けていることに、一種うらやましいものすら感じさせられる。ともかく「人を動かす人」が存在することが大変魅力的で、そのことがこれだけ大きな輪になることに感銘を覚えた。一方で、急峻な傾斜地の密集住宅地は佐世保の個性ではあるが今後の高齢者の生活を考えると課題を残す。

（Ａ）海と山に囲まれたコンパクトな市街地は、自然の良さと街の賑わいの両方を感じられて非常に心地よい。買い物や遊ぶところなど、都市的な環境はそれなりに揃っているが、それほど大きすぎない程よいスケールの街になっている。

（Ａ）長崎に比べ地味な存在に感じていたが、どうしてどうして、見るべきものの多いまちとわかった。

（Ａ）都市に興味のある人達にとっては大変面白いが、一般観光客にとっては観光地が少なく物足りないかも。市民にとっては、街と自然がコンパクトなエリアの中で体験できるいい都市なの

（初売りでにぎわう四ヶ町商店街アーケードの様子(2007.1.2 AM5:30)）

では。

（B）中心のアーケードにどうしてこんなに人がいるのというのが正直な印象。後背地に住宅が広がっているからか。通学路に当たっているのか。商店街の皆さんの奮闘もさることながら、地勢の影響が大きい。ファミリー向けのメインストリートと、夜の街の棲み分けもいい具合になされている。

（B）斜面密集市街地が一番心に残りました。崖地と組み合わさると解決がより一層困難になります。とにかく平坦な道路がない。どのように道路を通せばいいのか。中心市街地では四ヶ町･三ヶ町だけでなく、とんねる横丁につながる戸尾商店街など、商店街が元気がいいのがいいです。

（B）坂の街の今後が気になります。住民は高齢化し、車が入れない住宅も多く、駅周辺のマンションとの関係を整理することが重要ですが、手法を編み出して行かねばと思っています。

（B）なぜBかというと、建築家として商店街の環境的、景観的特徴づくり（イベント時は素晴らしいが）が感じられなかったので。でもまちづくりとしては充分なのかも。

（B）よそ者の集合体であるという潔さや排除しない考えが良い結果を生んでいるのかもしれない。丘の上は厳しそう。自衛隊、米軍、ＳＳＫ以外に何か産業を作りたい。

⑶ 佐世保のまちで魅力があると感じたもの

①「元気な中心商店街」「にぎわい」関連　(41：5, 5, 5, 5, 5, 5, 4, 3, 2, 2)

- すごいことです。ただし、その裏には大変な努力・苦労があることもわかりました。
- 活気があり、それが人を集め、さらに活気がでてくるような好循環にある。
- 歩いている人も若年層が多く頼もしい。
- 洋菓子屋の奥に洋食レストランがあったり、かつての中心商店街の姿がそのまま残っており感激。
- 表のアーケード、脇の夜の街、日常的な斜面下の商店街など狭い範囲でキャラが立った商店街が繁華街を形成しているところ。
- あれだけ人を集めているのは市民の心を捉えているからでしょう。

②「竹本理事長をはじめとする商店街の活動」「イベント」関連　(31：5, 5, 5, 5, 5, 4, 2)

- イベントを多く行い、市民に「街ではいつも何かやっている」「街に行けば楽しい」と思わせるための取組みを精力的に進めていること。
- きらきらフェスティバルなど年間を通じた企画ができるマンパワーが素晴らしい。
- よさこいなどは、各地との交流を図るのに相応しいイベントで、そのことが全国的に佐世保の知名度を上げることに貢献しているように思う。
- 竹本さんの街づくりに対する情熱とパワーはすごい。ハード整備などしなくても、街がこれほど良くなるという手本。

③「とんねる横丁」「戸尾商店街」関連　(28：5, 5, 4, 4, 4, 3, 3)

- ここにしか存在しない面白さ。
- 生きた歴史の証人といった存在に魅力を感じました。洞窟の奥で互いの連絡通路があり、実際の生活にどう使われていたか興味があります。
- 昼も夜も強い場所性を持っているところで、是非今のままであって欲しい。
- とんねる横丁では、外で勝手に写真を撮っていたにもかかわらず、親切に声をかけていただき、中まで説明つきで見せていただいた女将さんに、佐世保のホスピタリティーを感じました。

（とんねる横丁の食堂の内部を女将さんに見せてもらう）

④「佐世保バーガー」「外人バー」「佐世保らしい店」関連　(19：4,4,4,4,3)

・ バーガーのボリュームには驚いた。また食べてみたい。ご当地モノは重要。
・ よく考えれば単にハンバーガーなのだが、伝来のまちならではの名物として、パンフレットなどで各店の特長を紹介し、大いに売り込んでいること自体にまちの意欲と活気を感じる。入港ぜんさいや海軍さんのビーフシチューなども同様。
・ 食物の持込が自由なショットバーなど気軽に体験できてエキゾチックな魅力が伝わってくる。

⑤「戸尾斜面住宅地」関連　(17：5,4,3,3,2,1)

・ 狭く曲がりくねった坂道や階段が迷路のようで景観･空間構成上は地中海都市にも似た魅力がある。
・ 急な坂を登っていって、ふと振り返ると海が見える。坂道、階段、路地の街は、車も入れず、生活は大変だが、空間としては非常に面白い。
・ 斜面住宅の良さを維持できるような改修、法規制を期待します。千枚田と同じような人類の知恵を現代に生かす工夫の案出が待たれるようにおもいます。
・ 中心街のすぐ上という立地を生かした再生を。

⑥「コンパクトなまちの構造」「特有の地形のまち」関連　(12：5,4,3)

・ 旅人の目から、駅に降り立って全ての要素をつかむことが出来る箱庭的ところ。
・ 街中を移動していても湾や山や斜面住宅などの景色が場所によって異なるところ。
・ 病院や市民会館を既成市街地の中で再整備しているようで、非常によいと思います。

⑥「港」「海がまちに近い」関連　(12：5,4,3)

・ 軍港と離島の拠点という特徴はほかになく、そのよさを再開発でもっと活かすべき。
・ 海が近いこと、これだけでも価値が大きいと思います。また、魚介類の恵みも魅力です。新しい船のターミナルが駅からちょっと距離がありそうで不満。

⑧「三浦町教会」「親和銀行本店」など歴史的な建築物関連 (9：3,3,2,1)

⑨「佐世保中央駅」「松浦鉄道」関連 (5：3,2)

⑩ その他挙げられたもの

○ 佐世保駅周辺の整備　○ 生活に密着　○ 人々の開放的気風
○ 四ヶ町商店街に出ていた露店　○ 九十九島　○ ハンバーガー屋の前の歩道の並木

(4)　今後のまちづくりに対する意見、提案等

〔設問〕　佐世保のまちは、港を中心にまちなかの歩いていける範囲に、駅、病院をはじめとする公共公益施設や商業施設が集中し、商店街も元気で、地方都市では珍しく中心市街地に活気があります。これからのまちづくりのあり方として、市街地がコンパクトに集約され、市民の日常生活が歩いて、あるいは公共交通機関で不便なく暮らせるまちの形成が目指されるようになっています。
　佐世保のまちがこれからも暮らしやすく、にぎわいを持続していくためには、どのように取り組んでいけばいいと、あなたは思いますか。

〔意見、提案等〕

・ 地形の恩恵や商店街の頑張りで現在の活況があるが、油断してはならない。大規模店舗の郊外部への立地を断ったのは大英断だろうが、これからもその方針を続けるべき。公共施設の立地も中心街での充実を図り、周辺部からの公共交通を強化することが必要。再開発、居住人口の回復は重要だが、一方で斜面住宅地の老朽住宅に高齢者が多く住んでいる状況を解消するため、高齢者がマンションに移って、その後に若年層が安く入居するような仕掛けができないか。ほかに、佐世保バーガーや外人バー、とんねる横丁などを売りにして、ハウステンボスなどの観光客に市内に泊まってもらう工夫を。

・ 歩いて楽しい街に徹していくこと。日本一元気な商店街であっても、今後も、空き店舗を作らせない、空地にしない持続的な活動が必要。そのためにも、商店街の「民」と公共施設を整備する「官」の取組がかみ合うことが大切。高度利用より面的な賑わいを大切にすべきだと思います。

・ 郊外の大規模店舗の出店を規制し、かつ中心商店街で人を呼び込む努力を続けていけば、ある程度維

持できるのでは。周辺の傾斜地の住宅地の再整備は重要。既成市街地でのマンション建設は、どこまで周辺と調和した景観を作れるか、総合的な建築規制・努力・理解が必要。また、基地・軍艦をどうするか、より平和的な組織への転換をにらんで取り組んで頂きたい。また、港の再開発では、大規模商業施設は不要（分散、共倒れのおそれ）。これからの超高齢社会ではコンパクトシティが非常に重要になると思うので、その点で佐世保は注目です。

・ 商店街や街の中を、人が集まり、買い物したり、食事をしたり、映画を見たり、文化的交流の行える場として磨きをかける、買い物をする人口を保ち続ける（街なか居住）、街への足の確保。公共交通の利便性の向上では、例えば、交通渋滞をなくす、バス便の増設。商店街組合で商業アドバイザーを雇用し、各店舗へのアドバイスや空き店舗へのテナント誘致などを行い商業としての魅力を向上。

・ 四ヶ町･三ヶ町商店街では竹本理事長の人脈でイベントを行っているようで、後継者が育っていくことが賑わいを継続していく鍵のように感じました。高齢社会に向けて、斜面地密集市街地をどうするのかが一番の課題。マンションを縦に連続して建て、ＥＶを縦動線にできませんか？

・ 街そのものの魅力もさることながら、竹本さんの話に圧倒されました。何億円もの投資をしなくても、アイデアと実行力があれば、街は活性化するということを、実際の事例で紹介していただき、非常に良くわかりました。竹本さんがいなくなった後、活動を組織として受け持ってゆく仕組みを今から考えてゆく必要があると思う。一方、区画整理や再開発にこんなに投資して市の財政がちょっと心配。

・ 駅周辺に数多く建ち始めているマンションは、住居の面積やタイプ、価格からも入居者の幅が狭く、将来の本当の定着人口に繋がるのか。安いから人気があるだけでは。それよりも再生商店街とともに計画された住居形式（エキスペリエンツ７の提案）や戸尾地区などの住環環境整備が重要。

・ 現在の市街地の整備を新しい考えで行い、郊外部の開発は認めない、かつ今後の人口減少を考えて郊外部の住民を市街地に誘導する仕組みを構築する必要がある。

・ 傾斜地における高密度の住宅地が安全で暮らしやすい環境を維持するためには、やはりある程度ハードな整備が欠かせないと思う。平坦地に立地するマンション等の住宅とあわせ、後背地となって商店街との共生が図られることを期待したい。

・ 体力が衰えても、歩いて日常生活ができるようになればよい。本当は海を見ながら暮らしたいが、今のままでは困難であろう。平地に集合住宅を増やすことだと思う。

・ 奥の住宅地の広がりとアクセスはどうなっているのか？交通機関のアクセスを常に確保しておかないと、郊外の大規模商業施設に引っ張られると思います。

・ 商業施設をすべて集中させ、駅周辺の中心市街地のエリア一つで全てがまかなえるようにする。住宅地と商業地のエリアのメリハリをつけるようにする。

・ 佐世保ポートルネッサンス21地区の開発の内容が気になります。お互いに存在を認め合うような構成だと良いのですが。

（弓張展望台から佐世保バーガーを頬張りながら佐世保市街と海を望む）

・ 佐世保を高く評価いただきましたが、冷静に考えると決してまちづくりが計画的に行われた当然の結果ではなく、その意味で今後どう取り組んでいくべきかは他の都市同様、試行錯誤です。駅前、市役所前、さらには線形商店街と、まちの核がなく都市計画の教科書には決して出てこない形態のまちで、だから佐世保は発展しないんだと専門家からは長年評されてきました。また、まちなかの後背地である斜面住宅地での様々な課題の解決が今後のまちづくりの中心であるはずで、「市民の日常生活が歩いて、あるいは公共交通機関で不便なく暮らせる」ものからほど遠い状況です。是非、斜面住宅地の今後のありようについて議論を深め、いいご提案をいただければ幸いです。商店街も、一見活気があるように見えますが、増えている全国チェーンの店舗はいつ撤退するかわからず、イベントも新味性が無くなればすぐに飽きられます。まちはその時代時代で様々に変わっていき、評価も様々です。それは結局は住民の日々の営みの結果であり、皆さんの活動が住民の意識啓発を牽引されることを期待しております。

２．島原のまちの今後を考える

⑴ 参加者の評価、今後への提案等の概要

訪れた際の商店街の人通りも少なく、にぎわう佐世保のまちの翌日の行程でしたが、全体の評価は、TEKU-TEKUのまち歩きでこれまで訪れた他のまちの評価と比べても比較的高い評価が得られました。豊かな湧水を市民の暮らしやまちづくりに活かし自然と生活が一体となっている点や、城下町の歴史の面影を残すまちなみ空間が評価されたようです。

一方で、まちなかに活気を呼び戻すためには、これまでのまちづくりの方向を支持しつつ、あわせて人口の呼び込みや郊外開発の抑制をはじめとする都市機能の集約化を提案する意見があり、特に商店街に面して建てられた高齢者向け住宅のアイデアに賛同する意見が多くありました。また、まちの良さやまちづくりに関して外部へのＰＲにもっと努力する必要があるという指摘もありました。

⑵ 島原の中心市街地全体の印象に対する評価

〔評価集計〕

Ａ（大変良い）	Ｂ（良い）	Ｃ（普通）	Ｄ（悪い）
３人	９人	１人	０人

（記入者１３名/参加１７名中）

〔参加者のコメント概要〕

（Ａ）歴史や自然に恵まれた非常に魅力的な地方都市中心街である。街なかの随所に見られる湧水、縦横に走る水路に鯉が泳ぐ街、かつての姿を残す武家屋敷街、美しく立派な城址、レトロな持ち味で頑張る森岳商店街、中心街に高齢者居住を進める意欲ある事業家など、風土や資源を大切に活かした街づくりが多彩に進められている。しかし、郊外開発の計画が持ち上がっており、今が正念場といえる。

（Ａ）シャッター街になっていることに、地方都市の商店街の厳しさを改めて感じました。しかし、湧水や歴史を活かした街並み整備、定住人口を増やそうとする不動産屋さんの高齢者向け賃貸住宅の建設、金物屋さんの再整備など、地元のキーマンの取組に、街の再生への可能性を感じました。

（Ｂ）佐世保のような賑やかさには欠けるが、温暖な地でゆったりとした空気の流れる小都市ならではの中心市街地。その中でお城を持つことの強みをさらに生かして欲しい。また地元の方々がまちづくりについてよく研究しており、今後さらなる個性的な市街地の形成を予感させる潜在的な人の力が感じられる。

（Ｂ）まだまだこれからだとは思うが、普賢岳の噴火という災難を乗り越えて、試行錯誤の努力を続けている方々の努力をねぎらいたい。「まちづくりに取り組む以上に、その気力を持続していくことの方が大変なんですよね」とおっしゃった＜青い理髪舘＞のマダムの一言が胸にしみる。

（Ｂ）地方の古い都市との印象。たくさんいろんなものが残っている。島原城の堀、石垣、天守閣はかなり立派で、シンボル性が高い。それにしても、歩いている人が居ない。

（Ｂ）商店街に元気がないのが気になりました。湧水を生かしたまちづくりと町家の再生整備によるまちづくりは、ねらいどおり「心豊かな時間を過ごせる街」を実現しているように感じました。青い理髪店を商店会で再生整備したというのも元気な証拠でしょうか。２軒目の湧水のある家ではお茶も飲めるようでした。池と庭を拝見しながら豊かな時間の流れに心を任せてみたい気持ちになりました。

（B）どうしてこのような巨大な商店街が成立していたのだろうか。でもすぐ外側は住宅が広がっているので、順に代替わりが進めばよいのでは。商店街としては縮小傾向でしょうが、武家屋敷や城～駅の辺りは、由緒正しい良好な住宅地にちょっと気の利いた老舗が点在していればよいのでは。

（C）商店街は人通りが少なく繁華性に欠け、衰退している印象が強く、人を集める工夫もあまり感じられず、今後の発展性は厳しいと感じました。金物屋さんのあった周辺の商店街は、雰囲気はよく、またまちなみなどに工夫を凝らしているようですが、活気のなさが気がかりです。

⑶ 島原のまちで魅力があると感じたもの

①「街なかの湧水群」「鯉の泳ぐまち」「水屋敷」関連 （46：5,5,5,5,5,4,4,4,3,3,2）

・ 路地の奥の広場や商店街の一角など、街なかの至る所に湧水がわき、生活に使われている点がすばらしい。水屋敷という概念があり、水路が屋敷の中とつながっているのも面白い。
・ 清流が流れる道端の水路をみごとな錦鯉が群れをなして泳いでいる様は、（都会人には）とても贅沢な感じがする。道を歩くことが、一歩一歩とても味わい深いという貴重な体験ができる。
・ 湧水を活かし、地元の方の協力、参加により支えられている点が良いと思います。生き物の管理をできるということは、日々の暮らしと結びついていることが条件でしょうから。

（「鯉の泳ぐまち」の風景）

・ 縁側に座ってお茶などを飲みながら池･庭を眺めていると時間が穏やかに流れていくのでは。
・ 湧水を道路に流し、各家庭に引き込み池･ビオトープを作り、元の水路に戻すという湧水循環構想はぜひ実現してもらいたいです。肩肘張らないまちづくりではないでしょうか。
・ 小田原では水路が気温湿度を適度にコントロールしていると聞いたが、南国島原で天然のラジエター設備のポテンシャルがある！それもとても美しい形の模範もある！環境面でもっと研究、奨励を。

②「武家屋敷街」「歴史あるまちなみ」関連（35：5,5,5,5,4,3,3,3,2）

・ 黒い石積塀と中央に水路のある道が印象的な一度訪れたら忘れない風景で、今も現役の閑静な高級住宅地。いくつか住宅を保存・開放しており、往時の下級武士の生活を想像できて楽しい。
・ 歩いていて落ち着くまちなみがあることはそこで生活をしている人だけではなく観光客にとっても大きな優位性をもつ。
・ 道の中央を流れる水路と緩やかな勾配の道、それを区切る石垣は歩きたくなる道です。石垣の向こうに花の咲く樹木が植えられているともっといい。
・ 寂れた独特の風情が心にしみます。なんとか環境整備と景観整備を良い方向にもっていきたい。
・ 住宅の更新、建て替えのルール、規範があると、生活に根付いてもっと良くなると思う。

③「森岳商店街」「森岳商店街の建物の再整備」「青い理髪館」関連 （25：5,5,4,4,4,3）

・ 商店数は多くないが、歴史的まちなみを再生しつつ、それぞれのお店の持ち味を活かした頑張りがすばらしい。中に入ったのは猪原金物店と青い理髪館だけだが、両店とも、商品へのこだわり、空間のしつらえ、来客へのホスピタリティがとても印象に残る。
・ 歴史的建物の利用や使い方がとても好感が持てました。
・ 猪原金物店は、古い店構えを保ち一級品の品揃えに、手打ちそばの食べられる喫茶・ギャラリーを併設。商売を度外視したかのようなまちづくりの想いに感服。
・ 猪原金物店は、金物店としては大変優秀なお店。食じ内容がコストに対し少し不満。
・ 全体には物わびしいまち並みのなかで、青い理髪館の保存状態のよい洋館の小ぶりながら華やかさ

が際だっている。実に美味しいのに儲かっていないのではと心配になるほど良心的な値段のプリン、気さくなマダムとも相まって、インパクトが強い。

・ 青い理髪館は、いいデザインの建物を利用した雰囲気のある喫茶店。こういう個性とセンスのある店が点在するところがこの商店街のよさであると思いました。

④ 高齢者向け賃貸住宅（「生き生き横丁」） （16：5,4,3,3,1）

・ このような人口の少ない都市で、中心商店街の一角に高齢者住宅を供給したプロジェクトに拍手。低層部の外観もまちなみに配慮している。次のプロジェクトへの意欲を語る事業主に感激。

・ 商店街、しかも雨に濡れないアーケード街の中心に老人ホームを建て、お年寄りの便利な生活と商店街の活性化の一石二鳥を狙うという発想は素晴しく成功を祈りたい。

・ 郊外にスーパーを誘致していた地元不動産屋さんが中心市街地の疲弊に気づいて、逆にそのノウハウを活かして取り組んでいる点が素晴らしい。１階の喫茶コーナーが地元に開放されるともっと良い。

・ 商店街の中央部に立地しており、地元の人々の交流拠点としての性格をさらに強めて欲しい。

⑤「自然」「風景」関連 （8：5,3）

・ 雲仙岳を背景とした人間の住む空間と感じた。

・ 気候が温暖で海あり山ありで、例えば老後をのんびり過ごすという点では魅力がある。

⑥ その他挙げられたもの

〇 アーケード街　〇 高校生の店 島商ップ　〇南島原駅付近の船だまり

〇 島原駅　〇 具雑煮をはじめローカルな食べ物

(4) 今後のまちづくりに対する意見、提案等

〔設問〕 島原のまちは、湧水や城下町のまちなみの面影を活かした美しいまちなみづくりに、まちで生活する方々と行政が一緒になって着実に取り組んできました。一方で中心市街地のにぎわいの面からは空洞化が進んでいるのが実態です。島原のまちを美しくするとともに活性化を図るにはどのように取り組めばよいと、あなたは思いますか。

〔意見、提案等〕

・ 歴史・自然の豊富な資源が蓄積し、それをうまく活かした地元市民の頑張りによって今日に至っている。人口規模がさほど大きくないので、中心街の居住人口を回復しつつ、身の丈にあった街づくりを進めることが現実的である。森岳商店街のような、こだわりのあるお店が増え、それが外観にも現れてくると面白い。今、郊外部への大規模店舗立地が議論になっているが、中心街への誘致が正解では。あわせて、周辺部から中心街への公共交通の強化が必要である。

・ まちづくりに携わっている人々は、島原の歴史に誇りを持ち、高い志を持っているように思う。他方、佐世保に比べると、商売下手、宣伝不足を感じる。むやみに俗化するのはよくないが、まちの住民や役所の職員以外の（例えば我々のような）視察者からもアイデアを募った方がよいように感じた。

・ 拡散した市街地を元に戻す仕組みを時間をかけて構築していく。既に始まっていた高齢者の中心に呼び戻す作戦が重要。中心部に存在する未利用建物のリスト化、利用方法を整理し所有者の意見も聞き広く貸す仕組みを構築することはいかがか。

・ 島原のシャッター通りは地方都市の中心市街地問題の深刻さを考えさせられました。対策を講じたところで根本的な解決には繋がらないのではないか。地域の産業を振興し地元で就職し暮らしていける取組みや、街なかに住む人を増やす策、例えば、未利用地の活用が進むような仕組みがあるといいのでは。また、まちを美しく持続するには、城下町からの地割りを壊さず（土地を細分化せず）に建物の更新などが行われていくようにすべきと思いました。

・ 非常に大きな資源があるように思いました。武家屋敷らしい住宅を再整備していくことはできないでしょうか。佐原の活動を参考に。森岳商店街周辺で行っている町家の再生整備、アーケードの商店街にも古い店があったようです。「心豊かな時間を過ごせる街」が実現していくと人が集まる。商店街に面した高齢者向け住宅に入居するまだ元気な高齢者に、空商店などを人の集まる施設として活用する智慧のある人がいるのでは。老後の生活を送る候補地のひとつに加えることにしました。

・ 佐世保と同様、郊外型大規模ＳＣを作らないこと。公共施設を中心市街地に集中すること。今回、非常に印象的だったのが高齢者住宅でした。こういう取り組みは全国でももっと考えるべきです。島原は位置的に半島の先にあって大都市から遠いので、あまり背伸びしないでやっていくしかない。古き良きもの（町並みなど）を大切にしていけば、ディープな観光客はある程度見込めると思います。

・ 中心部に住むことに尽きる。でも、大災害があっても、人も、町並みも残っているので、底力はあると思う。建物には黒い瓦が欲しい。

（高齢者向け優良賃貸住宅「いきいき横丁」でオーナー生田氏から建設趣旨を説明）

・ アーケード商店街以外の部分は、今のかたちの修復型環境整備がいいと思います。アーケード商店街は生き生き横丁のような思い切った土地利用を促進するのが効果的と共感。若者向けの施設や住居などの計画もありうるかもしれません。また、まちなかでの区画整理などの可能性は。

・ 近江八幡は、シャッター商店街と観光客でにぎわう古い町並みという構図は似ているが、観光客にだけ向くのではなく市民が通う病院にヴォーリス設計の病棟が現役で使われていたり、近江兄弟社は今日も業務を行っていて、昔から脈々と日常生活を行っているところが良い。同様に青い理髪店の人が名物のプリンを高校生の毎日のおやつにと安価で作り続けているところに可能性を感じました。

・ まず、住んでいる方のために生活空間を美しくすることが基本では。そのことが、来訪者に地域の魅力を感じさせることになると思います。活性化についても同様だと思う。

・ 若い人が都会に憧れるのは、やむを得ない。これに対抗するのは、地元の良さを十分に理解した上で、その価値を子供の時から教育するより他にない。町の大人ひとりひとりが言葉に出して町の良さを説明できるかが決め手になると思います。

・ まちの美しさの実現のためには、住民と行政が目線を合わせながら今後も一緒になって取り組むしかない。活性化については、訪問客を増やすために自分たちのやっていることやすばらしい歴史などをもっとアピールを行い多くの人に興味をもってもらうことが必要。私もあまり知りませんでした。

・ 島原ならではの資源は十分にあるが、強いて言えば、やや拠点的な施設に欠けるように思う。県レベルともタイアップし、まちのＰＲにさらに力を入れて欲しい。

３．神代小路の今後を考える

こうじろ　くうじ

⑴ 参加者の評価、今後への提案等の概要

参加者は少し減ったものの、訪れた者のまち全体の評価では、佐世保、島原を凌いでもっとも高い評価を集めました。初めて知った思いがけない美しいまちなみに驚いた方が多く、特に武家屋敷の建物、生垣や石垣が伝統的な地割りとともに残り、現在も住民の手により生活の場である住宅地として美しい環境が高い水準で維持されていることが評価につながったようです。さらに、訪問時にメンバーを招き入れて伝統的な家屋の中を見せていただいた老婦人によってより一層感慨深い印象になりました。

⑵ 神代小路の印象に対する評価

〔評価集計〕

Ａ（大変良い）	Ｂ（良い）	Ｃ（普通）	Ｄ（悪い）
８人	２人	０人	０人

（記入者１０名/参加１４名中）

〔参加者のコメント概要〕

（神代小路のまちなみ）

（Ａ）これほど古い街並みが残っていることにびっくりしました。突然訪ねた私たちに玄関を開け中を見せていただいたご婦人に感謝です。ここにもホスピタリティーを感じました。一方、建物の老朽化が目につき、そろそろ手を打たねばならない時期になっていると思います。

（Ａ）小さいながらも粒ぞろいの武家屋敷群がひっそりと残っている。鍋島屋敷のスケールには圧倒されたし、珍しい竹の垣根が並ぶ道も非常に美しい。

（Ａ）旧鍋島邸は個人の住宅としてはすごい。小山まで含めたこのような庭園は余りないのでは。また区割りが残った街区も興味深かった。地方にはまだまだいろいろなまちなみがあるということか。

（Ａ）鍋島邸で案内していただいた方のお話しで、一層魅力が増しました。

（Ａ）石垣が美しかった。よく見ると材料･積み方に差があります。身分･家禄の違いによるものでしょうか。鍋島家住宅は中も見学できるとよかった。

（Ｂ）名前すら全く知らなかった場所。我々の突然の訪問に、ある住民の方は自ら家のなかを見せてくれようとしてくださり、古い家屋を大切にしてきた武家の誇りを見たような気がした。

（Ｂ）観光地ではない伝建地区は、はじめて見ました。普段の生活の中にある歴史的継承とはなにかを考えさせられました。

⑶ 今後のまちづくりに対する意見、提案等

〔設問〕　神代小路は、重要伝統的建造物群保存地区としては2006年に選定された新しい地区で、これから、まちなみの修景や整備（道路や水路を伝統的な構造に復元、建築物のファサード改修、資料館建設等）を行う計画です。神代小路が、今以上にまちなみの魅力を向上させ、また多くの人に親しんでもらうためにはどのような整備をしていけばいいと、あなたは思いますか。

〔意見、提案等〕

・ 町並み整備については、道路や水路まで伝統的構造に変えるというのは非常にすばらしい。建物や生垣については、住んでいる人の生計が保てることが必要で、地域の産業振興も大切か。資料館は、空き家の既存建物を利用したらどうか（新築は控えめにし、案内、マップ、休憩、トイレ、軽食等の場を提供）。島原や諫早の武家屋敷と連携し、島原鉄道で回るような企画もあれば面白い。

・ まちが築かれた時代からゆっくりと住んでいる人たちに急激な変化を強いてはいけない。逆に、鍋島家のように修理のおぼつかなくなった建物には支援が必要。入口の工場と倉庫は、街路側の植栽、生垣などに､既にある景観要素を展開して手を入れる｡中の生活はそのまま､ちょっとだけ垣間見るぐらい。観光収益を前提とする計画ではなく、この環境を守ってくれてありがとう料ぐらいの支援を。

・ 居住者のための住環境改善を基本に修景整備を。来訪者の為の整備としては、散策コースに写真撮影やスケッチができる視点場の整備を。さらに、地元の方と交流できる施設や企画があると良い。

・ 景観整備は是非表面的なものではなく、本格的な水準を期待したいです。そして大切なのは表面的な観光向け修景ではなく、住民の為の日常生活に適合したかたちの整備が、ここの町は適していると思います。イタリアなどの欧州の歴史的町の再生整備手法が参考になると思います。

・ 伝統的な家屋で、現在も住民が閑静な生活を続けていること自体に意味がある。むやみに観光化することは避けたいが、例えば、鍋島邸以外の武家屋敷群も、年に１度でもいいから共通の公開日を設けて見学者を受け入れるような体制があるとよいと思う。

・ 地域の住民が今の美しい生垣や建物を維持していくことが最も重要。空き地の生垣が伸び放題になっているのが残念。鍋島邸という内部を公開する施設があるので、それを中心として、街を散策し、あとはお茶を飲めるところがあるといいのでは。おばあさんが家の中を見せてくれると言ってくださった家のお座敷でお茶をいただけると最高かも…。駅からの行き方がわかる案内が必要。

・ 神代小路は住宅地です。多かれ少なかれプライバシーがさらされることを住民どうしで十分に話し合った上で、住宅の中に入れるのは鍋島家住宅などに限定して、通りに面したファサードを武家屋敷風にし、所々で庭と石垣を眺めながらお茶をいただけるようなしつらえがあるといいのでは。

・ 塀や生け垣の再生。派手な装飾や宣伝は不要で、静かでゆっくりみて歩くところとして位置づければよい。駅から近いので、島鉄ともっとタイアップすることが必要では。（駅には案内等、なにもなかった？）重伝建指定がもっと世間に広まれば、ここも注目されると思います。

・ 橋を渡ったところの工場跡地をきれいにして、周遊の拠点にする。武家屋敷１泊２日体験コースなどをつくり、今、住まなくなっている屋敷を宿泊施設にして、生活と産業を両立させる。藤沢周平ブームの今がチャンス！見るだけの伝建地区から五感で味わう伝建地区にしてはいかがでしょう。

４．「長崎」のまち全体を通して感じたこと等

〔設問〕　佐世保、島原など今回見ていただいた「長崎」のまち全体を通して感じたこと（他の地域と比べて魅力的な点、そうでない点など）や、上記各項目以外でコメント等があれば、ご記入下さい。

〔コメントの要旨〕

・ 長崎県は、地形ゆえに、コンパクトに凝縮した都市構造と交通体系になるため、他地域に比べると中心市街地が元気になる可能性が高いと思われる。しかし、現実に活性化を担っているのは、商店主を始め市民の皆さんの頑張りであることがわかった。また、古くからの歴史（キリシタン、武家屋敷、軍港など）や特色ある自然（九十九島、普賢岳、有明海など）の存在と、日本のはずれでエキゾチスムにあふれている点が面白い。何か「特別なところ」であるという感じがする。

・ 地形的に離島・半島が多く、県全体としてのまとまりではご苦労が多いことと思う。それぞれの地域における拠点的な都市で頑張ってもらうよう期待したい（県央部の諫早には、特に期待したい）。逆に言えば、それぞれの地域で個性的なまちづくりがなされることでもあると思う。それには、それぞれの地域で頑張る「人」が重要で、今回はそのキーパーソンのうちの何人かに、公私含めてお会いできた。今後は、それぞれの「人」の輪を広げると同時に、後継者を含めた人材育成が必要になろう。

・ 今回の訪問地を地図で眺めると、長崎県はいよいよ複雑な形状で捉えにくい、という感じがします。海に近く温暖なのでのんびりした印象。周辺では福岡県が大都会なので、観光面ではいかに福岡から恒常的に人を呼べるかが課題だと思う。

・ 平地が狭いことが、いいにつけ悪いにつけ地勢的な特徴。広く見れば海と山という資源があると見ることができるのですが、どのように活用していけばいいのか。斜面地密集市街地の印象が今回のまち全体の印象の過半を占めていますが、気になっていながらなかなかいい考えが浮かばずにいます。

・ 海と山に囲まれ市街地や集落がコンパクトで景観は変化に富んで魅力的だと思います。また、ホスピタリティーあふれる方が多いと感じました。

・ 長崎県や長崎方面は、その特異な歴史からも、個人的には日本国内でもっとも魅力を感じている場所でしたが、今回見た佐世保、島原で、その思いは更に増幅されました。折りしも「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が世界遺産の国内候補に加わりました。今後も折に触れて「長崎」のたどる道を見つめていきたいと思います。

・ 訪問した都市の骨格ができた時に戻り、どうするかを考えるとよいと思う。その当時と状況は大きく変わっているが、未だにあのような財産があるのだから、新しい道が開けると思う。人口がピークの時をベースに「過疎化」「衰退」などと言わないほうがよい。佐世保の商店街連合会会長の「自助、互助、公助」の精神は良いと思う。

・ 佐世保、島原は地名の知名度は高いのに、まちなみを思い浮かべることができないのでは？参加前のイメージは、佐世保：港、造船、米軍基地、島原：島原の乱くらい。佐世保に活気があるアーケード街があることは東日本ではほとんど知られていないはず。嫌でも頭に残るくらいに情報発信を行うことも必要ではないか。以前、東北各県を訪れましたがどこも中心部の空洞化ばかりで、新鮮でした。

---

５. 企画全体について

〔設問〕　今回の企画全体（２日間）についての意見、感想などをご記入下さい。

〔コメントの要旨〕

・ 今回は、２日間に中核都市（佐世保）、中心都市（島原）、中小都市（雲仙市神代）と、規模や機能が異なる３つの地方都市の中心街を一度に見て歩くことができました。すべて公共交通で回ったのも、中心市街地活性化を考える趣旨に合っていたと思います。しかも、地元市民・行政の方のお話を聞き意見交換できたのは非常に有意義でした。ご協力くださった方に感謝します。

・ 短い時間のなかで、とても良く企画された視察研修旅行で大変満足です。これだけ興味のある問題点が認識できたので、今後の各まちの動きを見るのが楽しみになりました。また機会を見つけて訪れてみます。

・ ２日間で佐世保と島原のまちづくりを十分満喫できる密度の濃いコースを企画、ご案内いただき、地元関係者の皆さんありがとうございました。

・ 自分では行くことのできない、密度の濃い街歩きでしたし、地域で活躍されている方のお話を聞くことができたのが大変刺激になりました。

・ 興味深い企画をありがとうございました。九州はなかなか行けず、このような機会がなければ佐世保も島原も訪れることはなく、また個人的に行っても今回ほど深く知ることはできなかったでしょう。

（参考）

○ 評価を受けとめて、これから

（佐世保）

佐世保の中心商店街のにぎわいについては、商店街の方々の努力が高く評価され、行政もまちなかを重視する政策を打ち出し、民、官あげての体制となっています。しかし、現実には佐世保の中心市街地も決して安泰ではなく、それどころか１０年前と比べ、売上額、アーケードの歩行者通行量はおよそ３割程度減少し、他都市よりはペースは遅いものの、このまま同じ道をたどるかどうかの岐路に立っています。

本格的な人口減少、超高齢社会に向かうこれから、家から歩いて行くことのできる身近な生活圏に買い物などの日常生活上の最低限の利便性を確保すること、特に都市の中心市街地には居住を含めた都市機能を集積させ、すべての市民が利便性とにぎわいの楽しさを享受しうる生活スタイルを実現することが、今後の（地方部の）都市居住の姿として目指すべきものであり、これに佐世保がもっとも近い、いわば先進的な位置に立っていて、また地形にも適していることを今回再認識しました。また、このまちづくりの流れがより幅広く確固たるものとなるよう、官、民で一層大勢の市民を巻き込んで取り組んでいくことが求められていると思います。

まちの基盤を整備する点からは、中心部に隣接し一体として広がる斜面密集市街地が大きな課題であることが多くの参加者から指摘され、コンパクトなまちの構造の一部を担っている一方、高齢化への対応を急ぐべきという意見は共通していました。路地空間としては高い魅力があるとされたように、眺めや風通しなどいい面も評価しながら、斜面都市佐世保ならではの工夫を様々重ねていくことが必要です。最低限の道路等基盤の整備（これだけでも大変ですが）と高齢者の住まいの確保や住み替え、住宅の更新の促進方策とともに、生活支援サービスの充実やコミュニティ活動の支援などハード、ソフトを組み合わせた対策が必要に思います。見捨てずに、まちの大事な一部として、じっくりとつきあいながら住み続けられる環境への改善に知恵を出し合うべきでしょう。同様の地域を持つ他都市との連携や、全国のまちづくりに携わる者にも関心を持ってもらい研究や指導もぜひお願いしたいところです。

ポートルネッサンス21地区の開発については、商店街との競合を心配する声もありました。佐世保では貴重なまとまった土地で、駅前、港を臨む優れた場所です。現在の市街地に不足する都市空間として魅力あるまちなみの創出と、福岡に流出している周辺を含めた人々を引き止めるための、商店街と相乗効果をあげられる提案はできないものでしょうか。

また、佐世保は、文化財的なまちなみ、施設がなくてもまち歩きを楽しむことができる都市として売り出せる個性的な魅力を有していると感じました。イベントなどの賑わい、切れ目のない商店街、海軍の港町に由来する特徴あるハンバーガーなどの食べ物やジャズバー、外人バーなどの飲食店、さらに、とんねる横丁、市場街‥、これら高く評価されたものは、地元の人達が思っている以上に、他都市にはない面白い、魅力的な宝物です。これらの要素をもっと評価し、独特な雰囲気を体験できる都市として上手にＰＲすれば、来街者を増やすことができると思います。案内には名勝地と異なり工夫が必要です。長崎市で昨年度から行われているまち歩き博覧会(「さるく博」、地元ボランティアが昼、夜のまちを案内)が参考になるのではないでしょうか。

（島原）

島原の中心市街地については、にぎわいの面からは厳しい状況にありますが、それでも今回のまち全体に対する評価は高いものでした。これまでのまちづくりの取り組み、蓄積の方向は間違っていないことが改めて示されたということでしょう。地元ではなかなか先が見えない現状に少し焦りがあるかもしれませんが、まちづくりは長い時間続けていくことが大切であることをもう一度思い起こし、少しずつ前に進むしかありません。

活性化のためには、地元の人の買い物のニーズへの対応と、来街者の増加策がそれぞれに必要に思いますが、後者については、森岳商店街の青い理髪館や猪原金物店、（今回訪問しなかったが）町家を利用した地域交流施設など素晴らしい建物やそれを運営する方々がいるのですから、それぞれの魅力を知って楽しんでもらえるよう、初めて来訪した人の視点に立って、もっと何ができるか、一層の工夫が求められます。

都市構造について、島原は県内では比較的緩やかな地形にあり、他都市より車利用が進行し、その意味で他県同様、都市の拡散が進行しています。今こそ、市民と真剣に議論し、再び中心部やそれぞれの生活地域の拠点に居住と生活機能を集約するよう方向転換すべきではないでしょうか。ただ、中心部も佐世保ほどの集積は見込めないですから、緩やかな集積や、視察した高齢者向け住宅を先例にして小規模で試行的な集積のプロジェクトを積み重ねるなどの、島原にあった方法を考えることが現実的であるように感じます。また、市民が不足していると感じる魅力ある商業等施設を誘致する用地として、中心部かその近接する地区の低未利用地や工場用地を提供できるよう、土地利用の整序、転換をもっと行政が積極的に行うことはできないものでしょうか。

美しいまちづくりに関しては高く評価されましたが、一方で武家屋敷街に対しては、景観を保全していくしくみやルールづくりにもう少し努力の余地があると指摘する意見もありました。

まちなかでは、他都市には負けない最大の魅力である、「水」の使い方に、もっと徹底的にこだわり、工夫し、さらに売り込む努力が必要に思います。水に対する人々の関心は地元が思う以上に高いものです。これまでの景観向上にさらに磨きをかける一方、意見にあった都市環境の向上に役立てるなど環境面からも先進的なまちづくりという発想を取り込んでみてはどうでしょうか。全国の話題ともなりましょう。大学等研究機関と連携することが考えられます。さらに、水を活かした魅力的な商品開発、まち歩きの拠点設置などにも商店街や市に取り組んでもらいたいものです。

中規模都市の市民生活環境の整備と、美しく豊かな個性が光るまちづくりが続けられることを期待します。

（神代小路）

雲仙市神代小路地区は、観光地化していない点や、商業的なにぎわいとは異なる、住宅地としての歴史的な品格と端正なたたずまいがとても良好な状態で残されている点が、驚きをもって高く評価されました。地元でもこれらの点の評価は相当に認識していて、今後のまちなみ整備に活かすと聞いていますが、伝建

地区に指定されたこともあり今後徐々に来訪者が増加してきたときに、どのように受け入れて、どう残していくのか、地元居住者をはじめとする関係者の方々の、よりしっかりした合意と、取り組みの方針が重要になるでしょう。住宅地ですから、評価にもあるように居住者の生活環境の向上にも努めながら、地域のまちなみにこれまで同様誇りを持ち続けて住んでいくことができるように考える必要があるでしょう。

以上、皆さんからの貴重な評価を一地元関係者としてしっかり受け止め、地域の方々にもお伝えしてさらに議論しながら、これからのまちづくりに活かしていきたいと思います。（文責：呉）

○ 現地行程

１月１３日（土）

12:00　佐世保駅改札前《第１回集合》
12:10発　タクシーに乗車
12:20着　元町で下車、徒歩
→［旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館］
→［佐世保バーガー店「ログ・キット」］スペシャルバーガー780円
12:40発　佐世保バーガー店前から再度タクシーで移動
12:50着　弓張展望台
高台から佐世保の市街地、港、九十九島を展望
13:05発　タクシーに乗車、佐世保駅へ（13:20着）
13:30　佐世保駅改札前《全体集合》
13:30発　徒歩 →［港周辺再整備地区］「ポートルネッサンス21地区」として港湾地区の埋立、再整備を市が計画、整備中
→［アルカス佐世保］大小ホール、会議室がある文化施設、H13年度オープン
→［三浦町教会］昭和6年竣工の、国道35号線に面して建つまちなかの教会
→［斜面住宅地（戸尾地区）］中心市街地に隣接した急斜面を駆け登る住宅地
→［とんねる横丁、戸尾地区市場街］防空壕の横穴を利用した珍しい商店街、他にも西海市場など計７つの市場が並ぶ
→［四ヶ町、三ヶ町商店街］1km続く佐世保の中心アーケード街、地方都市として驚く程の賑わい
15:15着　四ケ町商店街協同組合事務所
商店街連合会理事長竹村氏による講演（商店街振興の努力）、市担当者（まちづくり課）から中心市街地活性化の取り組みについて説明、質疑応答（～18:00終了）
18:30～　懇親会、夜のまち歩き

１月１４日（日）

7:47発　佐世保駅　（ＪＲに乗車、諫早駅で島原鉄道に乗り換え（諫早駅9:07着、9:37発））
10:54着　南島原駅
徒歩 →［浜の川湧水］数多い島原の湧水の中でも特に生活感あふれる湧水
→［アーケード商店街］島原の中心商店街ですが衰退が深刻に
→［高齢者向け優良賃貸住宅「生き生き横丁」］アーケード内に昨年完成、オーナーの生田氏から建設趣旨を説明
→［鯉の泳ぐまち］住民によって育てられている錦鯉が豊かな水量の水路を悠々と泳ぐ、周囲には屋敷内に湧水があり池と水路に囲まれた水屋敷が点在
→［島原城址］立派な城で、美しい天守閣が復元され堀に映える
→［武家屋敷街］通りの両側に続く独特の石垣と中央に流れる水路が印象的で落ち着いた風情
→［森岳商店街］街並みづくりに取り組む商店街で少しずつ美しいまちが形成、賑わいに結びつけるのが課題、古い洋館である元理髪店を利用した「青い理髪館」も訪問
13:00着　猪原金物店
昼食（蕎麦：金物店内部の中庭を囲んだ空間がギャラリー、蕎麦屋になっています）
引き続き、商店街関係者（店主猪原氏）、市担当者（都市整備課）から街並みづくりについて説明、質疑
15:20発　徒歩で島原駅へ（15:30着）
15:42発　島原駅（島原鉄道に乗車）
16:08着　神代町駅で下車
徒歩 →［神代小路］鍋島藩神代領時代の武家町の建物、地割り、景観が静かに残る
17:04発　神代町駅で再び島原鉄道に乗車
17:52着　諫早駅、解散（空港利用者は、18:10発空港行きバスに乗車、長崎空港18:52着）